

大型クラゲ分布調査

(有害生物出現調査及び情報提供委託事業)

向井哲也・福井克也・村山達朗

1. 研究目的

近年、日本沿岸に大量に来遊し大きな漁業被害を与えている大型クラゲの出現状況を、調査船による洋上調査、操業漁船からの聞き取り調査等により迅速に把握し、大型クラゲの分布状況に関する情報を漁業関係者に迅速に提供し、漁業被害を低減することを目的とする。

2. 研究方法

(1) 洋上分布調査

平成 20 年 8 月 26 日～8 月 28 日にかけて隠岐島北方～対馬西方の海域の 20 定点において、調査船「島根丸」により LC ネットを使用して大型クラゲを採集した。採集したクラゲは個体数、傘径、及び感覚器官の間隔を測定した。

(2) 洋上目視調査

10～12 月に計 5 回、調査船「島根丸」により島根県沖の 12 地点において、船上から目視による調査を実施した。調査は各定点から 2 マイルの距離を航走する間、ブリッジ上両舷から目視された大型クラゲを計数した。

(3) 陸上調査

県内主要漁協からの来遊状況の聞き取りと定置網漁業および小型底びき網漁業の標本船調査を実施した。標本船は、定置網漁業 5 ヶ統と小型底びき網漁業 5 隻に依頼した。定置網では 8 月から 12 月までの期間、操業ごとの入網数、大きさ、被害状況、対策実施の有無について記入を依頼した。小型底びき網漁業については、9 月から翌年 1 月までの期間、操業地点ごとの入網数、大きさ、被害状況、対策実施の有無について記入を依頼した。

3. 研究結果

(1) 洋上分布調査

どの調査地点でも大型クラゲ（エチゼンクラゲ）は全く採集されなかった。また、停船時の目視でも大型クラゲは全く認められなかった。

(2) 洋上目視調査

いずれの調査においても大型クラゲは全く目視確認できなかった。

(3) 陸上調査

①定置網

平成 20 年は一部の定置網で 11 月下旬～12 月上旬に 1 日 1～4 個の入網があっただけで、定置網への大型クラゲの入網は非常に少なかった。最大で 3500 個／日程度の入網があった平成 19 年と比べれば、皆無と言ってよい状況であった。

②底びき網

小型底びき網でも大型クラゲは 10 月に島根半島沖で数個の入網が見られただけであり、平成 19 年のような操業に支障をきたす被害は皆無であった。

(調査結果の詳細は、本報告書「平成 20 年度の大規模クラゲ出現状況」を参照のこと)